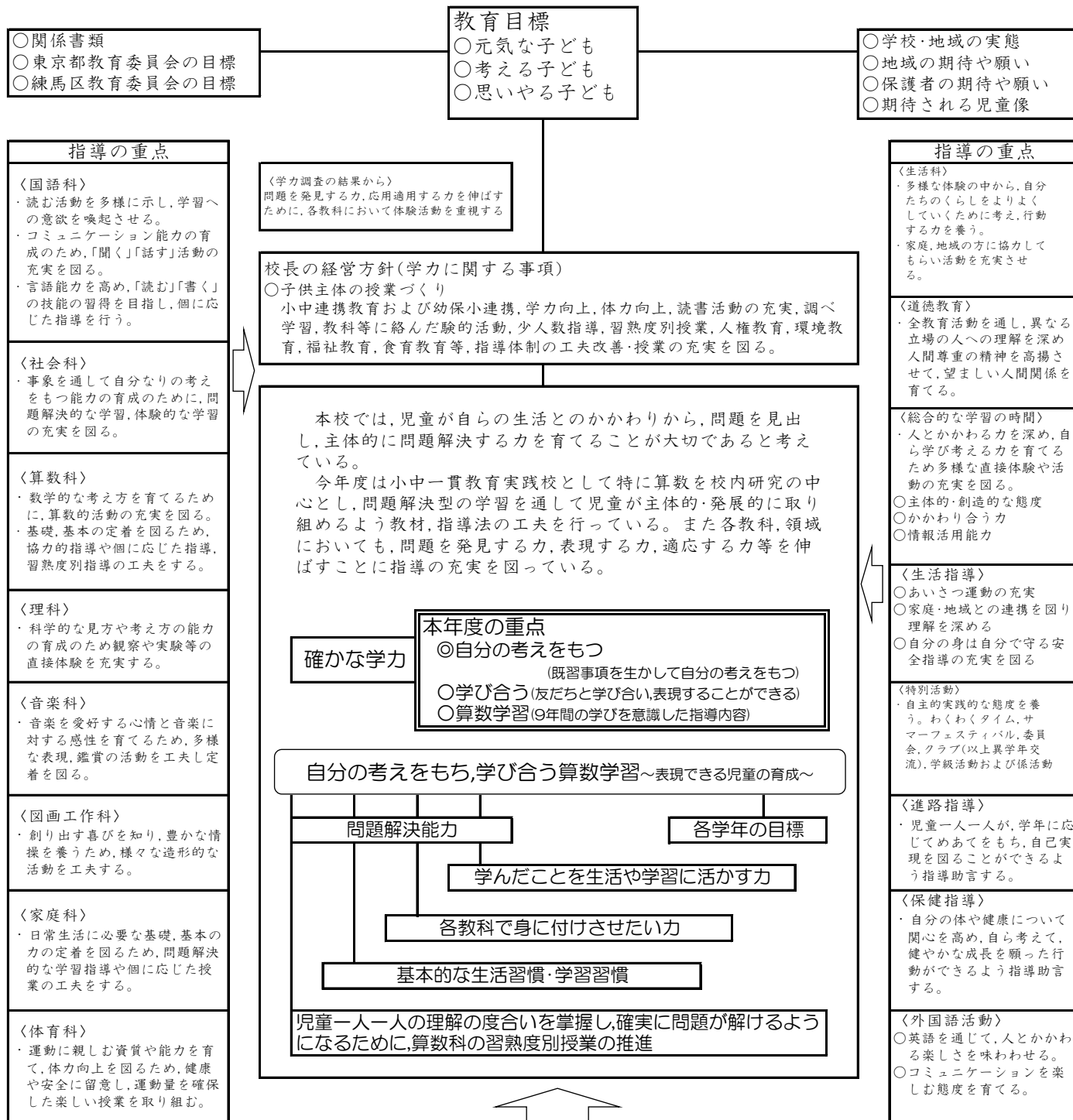




田柄第二小学校の授業改善に向けた視点

指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫	小中一貫教育の視点
・体験的、問題解決的な学習を重視する。 ・児童の実態に応じた学習指導を行う。(習熟度別授業の工夫) ・基礎的基本的な知識や技能を体系的に身に付けさせる。 ・読書活動の充実のため、毎週水曜日始業前に15分間の読書タイムを設ける。 ・図書支援員の協力を得ての授業や、ボランティアを用いた読み聞かせを行う。	・少人数指導を工夫する。 ・夏季休業中に学力補充教室を行う。 ・年間2回の読書旬間を実施する。 ・土曜授業を計画的に行い時数の確保をする。	・田柄中、田柄小との小中一貫教育実践校として、研究の充実を図る。 ・学年教科の年間指導計画を見直し、改良を加え実施する。 ・長期休業を中心に、職員研修を充実させる。(パソコン研修、特別支援教育研修、体育実技研修、OJT等の推進)	・1時間の授業前と後を振り返り、自己評価させる。 ・児童の意識調査を数回行い、学ぶ意欲の変容を確認して、学年計画に反映させる。 ・自己点検シートや授業観察シートを用いてお互いの授業の改善を図る。	・学校公開日、授業参観日を設定し、アンケートを行い、外部評価参考とする。 ・保護者に向けて年度末に総合的なアンケートを行い、次年度の教育活動の改善に生かす。 ・道徳授業地区公開講座を実施する。 ・保護者の協力の下、学校安全安心ボランティアを実施する。 ・地域子ども会を組織する。 ・地域農家、高齢者クラブとの交流を行う。	・連携校3校は、施設が離れているので、交流を通して教員同士お互いを知る。 ・小学校、中学校の指導のよさと課題を認め、互いのよさをそれぞれに生かす。 ・9年間という学びの連続性を意識した授業を実践する。 ・指導法にも小中学校で一貫性をもたせるようにする。